

夏期フランス語研修報告書

健康福祉学部理学療法学科 1 年

渡辺麻姫

私は 4 月から第二外国語としてフランス語を勉強し始めました。将来アフリカなどの途上国で働くことを志しており、フランス語を話せたら活動の幅が広がると考えたからです。しかし、週 2 回の授業では進みが遅く、生活レベルまで話せるようになるとは思えませんでした。そんな時見つけたのが夏期フランス語研修でした。日本にいて語学が上達しないのであれば、いっそ現地に飛び込んで学ぶほうが早いのではないかと考えました。こうして私は手早く語学を身につけることを目標にこの研修への参加を決めました。

現地では 4 週間、週 4 回語学学校に通いました。全くフランス語がわからないと言っても過言ではない私にとって一日中フランス語をフランス語で学ぶことはとてもハードでした。先生が何を説明しているのかわからないので、授業中どの問題を解けばいいのかすらわかりませんでした。そんな時、クラスメイトが優しく教えてくれたり先生が何度も丁寧に教えてくれたりしました。最初は全くついていけなかった授業ですが、徐々に慣れていき、研修 2 週間目を過ぎる頃には周囲のフォローなしで学び、時にはフランス語で質問ができるようになりました。

放課後や休日には授業で習ったことを使うべく様々な場所に遊びに行きました。一人で水族館や美術館に行ってチケットを買ったり、道を聞いたり、ジェラートを注文したりすることで、教室内の学びが実践につながる事がとても楽しく感じられました。休日には他の学生と特急列車に乗ってパリやマルセイユに行き観光を楽しみました。

この研修で一番印象に残ったのは一人で迷子になったことです。私は語学学校までバス通学していましたが、一度乗り間違えに気づかず、20 分ほど間違ったバスに乗り続けてしまったことがありました。気づくと車窓が普段と全く違い、近くにいた人にとっさに話しかけ助けを求めました。すると、親身に話を聞いてバスを降りて地下鉄で大学の最寄り駅に行くようにとアドバイスをくれました。そこからたくさんの人にフランス語で話しかけ道を聞くことを繰り返し、やっとの思いで学校に着いたのは授業 10 分遅れでしたが、この体験から得られたことは大きかったと思います。拙い語学力でも行動を起こせば人は助けてくれて問題を解決できるということを実践的に学べたからです。これは私に大きな自信をつけさせてくれ、今では「行動を起こせばなんとかなる」をモットーにしています。

これらの体験から「手早く語学を身につける」という最初の目標は達成できたと考えています。最初は全くフランス語を話せなかったにもかかわらず、研修を通して迷子になっても問題を解決できるだけの力が身につき、生活をこなせるレベルに達したからです。

今後この研修への参加を考えている方々には語学への不安を理由に留学を躊躇しないしてほしいです。私の例のように話せないから行くくらいの気持ちで海外に飛び出すことも大学生ならではないかと思います。今後ますますの本大学における留学プログラムの繁栄を願います。

